

神奈川県保健医療計画 進捗状況評価調書

<項目>

第2章 疾病別の医療連携体制の構築

第2節 脳卒中

とりまとめ担当課：保健福祉局保健医療部医療課

1 課題に対する平成26年度の実績

(1) 予防	
	→県内の各団体・関係機関や市町村とともに健康づくりを推進するために、かながわ健康プラン21推進会議を開催(2回)、神奈川県生活習慣病対策委員会(各種部会1回、かながわ健康プラン21目標評価ワーキング1回)を開催(1回)し、事業検証を行うとともに、県民、関係団体、行政間で効果的な推進を図るための検討を行った。 →県民、企業、学校、行政が一体となって、円滑に計画を推進するため、かながわ健康プラン21地域・職域連携推進部会を開催(1回)、市町村への情報提供及び連絡調整のため、市町村健康増進事業主管課長会議を開催(2回)するとともに、研修、健康教育を実施した。 →かながわ健康プラン21推進会議の構成団体がイベントやセミナー等(かながわ健康財団による各種イベントにおける簡易測定等)を開催した。またそれらイベントの情報を取りまとめ、ホームページで情報提供した。 →県民に対し、より効果的な施策の推進を図るため、有識者や先進的な取り組みを行う民間企業、自治体等により検討を行う健康寿命日本一戦略会議(平成25年5月設置)を開催した。
(2) 医療	
ア 病院前救護体制及び急性期医療	→救急患者の円滑な搬送に資するため、医療機関の応需情報を、消防機関や医療機関に提供する県救急医療情報システムを運用するとともに、システムの利便性を向上するため、タブレット型端末で利用できる等、新たな機能を付加したシステムの開発に向けて検討した。 → 二次救急医療機関のうち、専門科(脳外科)医療機関の運営に必要な経費(報酬、給料、職員手当等、法定福利費、賃金等)に対して補助を実施した。(補助施設7施設、補助金額19,207千円)

	イ 急性期後の医療 →在宅要介護者を介護する者（在宅介護者）への訪問歯科保健指導に必要な機器等の購入補助。（平成 26 年度 16 件） →湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会及び湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会ワーキンググループにおいて、維持期医療機関・介護施設等へのパス運用拡大について検討を行った。
	ウ 医療機能の情報提供及び連携の推進 →脳卒中の治療に対応できる医療機関について、県内の医療機関からの報告を受け、かながわ医療情報検索サービスのホームページにおいて公表した。 →湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会及び湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会ワーキンググループにおいて、維持期医療機関・介護施設等へのパス運用拡大等について検討を行った。

2 目標値の推移

	名 称	単位	策定時	実績値	達成目安	目標値 (H29 年度)	達成率 (%)	備考
(1)	特定健康診査の実施率	%	40.3 (H22)	42.9 (H24)	48.7	70.0 以上	△ (30.9)	医療費適正化計画
(2)ア	脳梗塞に対する t-PA による脳血栓溶解療法適用患者への同療法実施件数	件	286 (※1) (H22)	235.5 471 (H26)	322	350 (※2)	△ (-140.3)	NDB
(2)ウ	地域連携クリティカルパスに基づく診療計画作成等の実施件数	件	870 (※1) (H22)	1,503 3,006 (H26)	1,161	1,380 (※2)	◎ (217.5)	NDB
—	男性 脳血管疾患年齢調整死亡率 (人口 10 万人対)	%	45.6 (H22)	—	—	38.0 (H34)	—	かながわ健康 プラン 21 (第 2 次)
—	女性 脳血管疾患年齢調整死亡率 (人口 10 万人対)	%	26.0 (H22)	—	—	23.8 (H34)	—	かながわ健康 プラン 21 (第 2 次)

※1 平成 22 年 10 月から平成 23 年 3 月までの 6 か月間の件数

※2 平成 29 年度中の 6 か月間の件数

3 参考指標の推移

取組 区分	指標 区分	指標名	単位	神奈川県内			備考
				H24 年度	H25 年度	H26 年度	
(1)	◎	健康診断・健康検査の受診率	%	68.2 (H22)	66.3 (H25)	66.3 (H25)	H22、H25 年国民生活基礎調査

4 課題ごとの進捗状況の評価

(1) 予防

評価	A ・ B ・ C ・ D
評価分析	「かながわ健康プラン21（第2次）」の推進 - 健康寿命の延伸を図る「未病を治す」取組みの推進により、生活習慣病対策に向けた食生活の改善、運動の習慣化などを県民が実践できる環境づくりの促進が図られた。 - 数値目標に掲げる特定健康診査の実施率については、数値目標の目安に対して達成が遅れている。
評価理由	「健康寿命日本一」（健康寿命の延伸）の課題達成に向けては着実に進捗しているが、特定健康診査の実施率については、数値目標の目安に対して達成が遅れるなど、全体としては、課題解決に向けてやや進捗が遅れている。
今後の取組の方向性	- 新たな取組等が県民の健康づくりに定着化するように、市町村、企業・団体と連携して取り組む。 「未病を治す」取組みを推進する中で、特定健診実施率の向上に取り組む。

(2) 医療

評価	A ・ B ・ C ・ D
評価分析	ア 病院前救護体制及び急性期医療 - 二次救急医療機関の運営に対して助成したことにより、県央医療圏における脳卒中に係る二次救急医療体制の確保が図られた。 - 数値目標に掲げる脳梗塞に対する t-PA による脳血栓溶解療法適用患者への同療法実施件数は数値目標の目安に対して達成が遅れている。
	イ 急性期後の医療 在宅介護者への訪問歯科保健指導に必要な機器等の整備に対する助成や保健福祉事務所が開催する委員会等において多職種協働による在宅医療の推進や維持期医療機関・介護施設等へのパス運用拡大について検討が行われた。
	ウ 医療機能の情報提供及び連携の推進 脳卒中の治療に関する医療機能について、必要な情報提供が果たされた。

評価理由	・急性期医療及び急性期後の医療において必要な機器等の整備がされ、地域連携クリティカルパスの在宅医療や介護施設への運用拡大が検討されているが、脳梗塞に対する t-PA による脳血栓溶解療法適用患者への同療法実施件数が策定時から減少するなど、全体としては、課題解決に向けてやや進捗が遅れている。
今後の取組の方向性	・26 年度に引き続き、委員会等で地域連携クリティカルパスの発行数の増、維持期機関へ連携のための登録数の増、普及啓発について検討し、脳卒中における医療連携体制の構築を図る。 ・脳梗塞に対する t-PA による脳血栓溶解療法適用患者への同療法実施件数については、新たな治療法の出現などで相対的に件数が減っている可能性があるが、来年度の数値把握時に同様の傾向が見られる場合は数値目標の見直しも検討する。

5 総合評価

評価	評価理由
C	「かながわ健康プラン21（第2次）」に基づき、予防体制が整備され、地域連携クリティカルパスの在宅医療や介護施設への運用拡大が検討されているものの、数値目標に掲げる特定健康診査の実施率については、数値目標の目安に対して達成が遅れているため、課題解決に向けてはやや進捗が遅れている。

6 特記事項

--